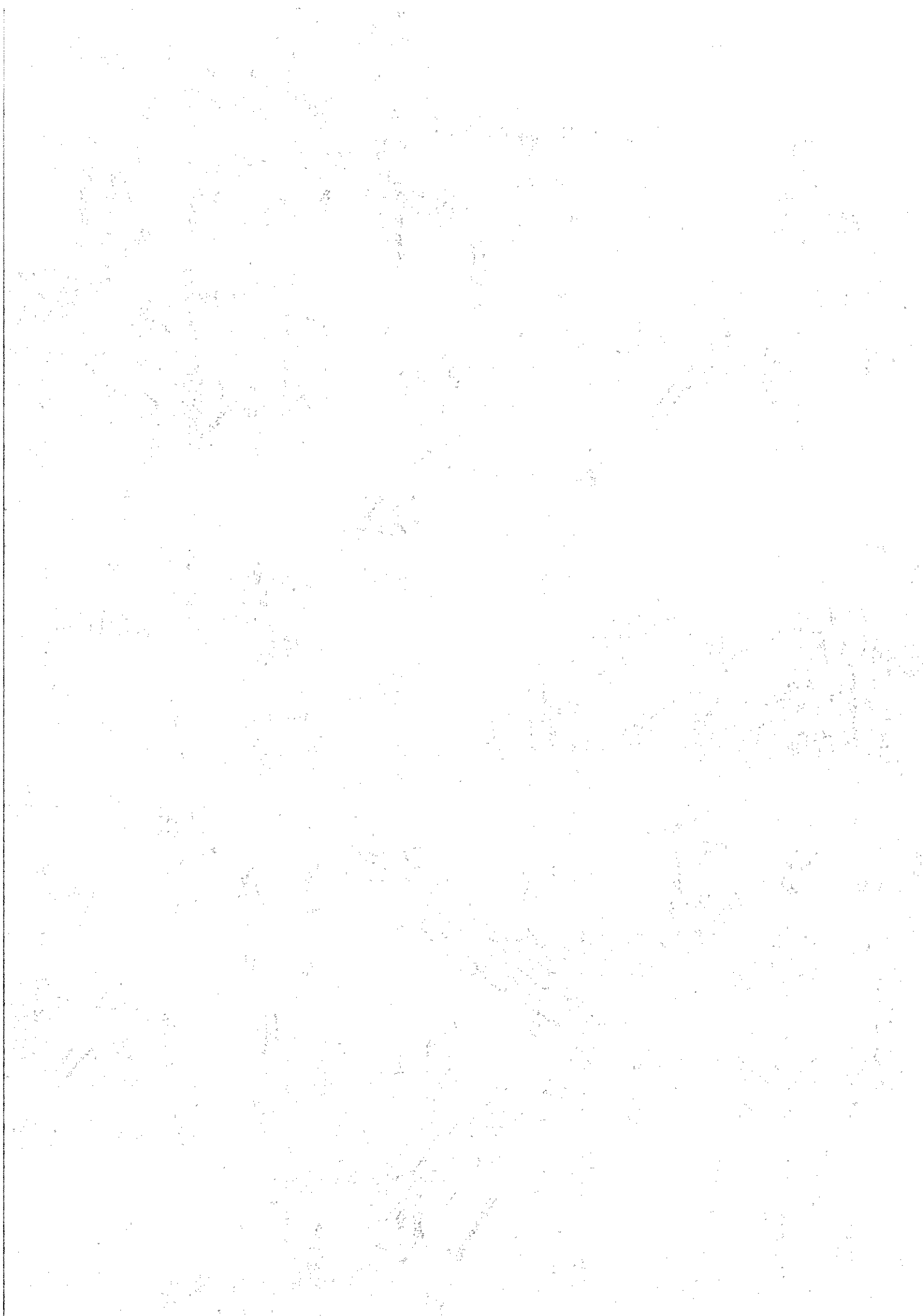


宮城県の伝統的漁具漁法 X

(漁村・漁業関係の歴史的文献集)

平成9年3月

宮 城 県



はじめに

宮城県では漁村高齢者能力活用事業の一環として伝統的漁具漁法の調査・資料収集に取り組み、県内関係諸兄の御協力を得ながら、本県沿岸域及び内水面の伝統的漁具漁法や和船、さらには海面養殖業技術の発展経過や養殖産品の伝統的料理法などについて取りまとめ、次のとおり発刊してきました。

番号	発行年次	項目
I	昭和 62 年度	南部地区 (松島湾周辺)
II	昭和 63 年度	中部地区
III	平成 元 年度	北部地区
IV	平成 2 年度	南三陸の和船 (カッコ)
V	平成 3 年度	内水面
VI	平成 4 年度	養殖編 (のり)
VII	平成 5 年度	養殖編 (かき)
VIII	平成 6 年度	養殖編 (わかめ・こんぶ)
IX	平成 7 年度	養殖編 (ほや・ほたてがい)

今回は、伝統的漁村文化等の収集伝達という主旨から、漁業・漁村の歴史や伝統的文化・風土に関する文献について、その要旨を紹介するかたちで、水産業専門技術員並びに水産研究開発センター職員が中心となり分担・協力して取りまとめました。

本編の発刊を契機として、本県漁業の生い立ち、そして、漁村が育んできた文化の重要性などについて御考慮いただき、さらに、各方面に御活用いただければ幸いです。

目 次

はじめに

1. 漁業・漁村の歴史と発展

- (1) 漁業・漁村に関する歴史書 1
- (2) 市政史・町政史 5

2. 漁村の伝統的文化

- (1) 民俗・習俗 13
- (2) 風土・文化 16
- (3) 調査研究機関別発行図書 18
 - A 東北学院大学東北文化研究所 18
 - B 宮城県 20
 - C 東北歴史資料館 22
 - D 仙台市歴史民俗資料館 23
 - E 石巻文化センター 24
 - F 宮城県教育委員会等 25
- (4) 研究連絡誌等 26
 - A 東北民俗（東北民俗の会発行） 26
 - B 漁村（漁村文化協会発行） 28

1. 漁業・漁村の歴史と発展

(1) 漁業・漁村に関する歴史書

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：東北読本 上巻 発行年月：昭和13年7月 発行主体：文部省	第8 東北地方の水産業 ○文部省による東北地方の紹介書。	109-128 東北歴史資料館
文 献 名：浅海養殖60種 発行年月：昭和40年7月 発 行 所：(株)大成出版社 (東京) 著 者：大島泰雄ほか	○浅海養殖業の発展について歴史的 記述あり。特にマボヤやワカメは 宮城県において著しく発展した。	1-418 水産研究開発センター
文 献 名：牡鹿半島物語 発行年月：昭和46年4月 発 行 所：(株)宝文堂 (仙台) 著 者：関根一郎	○鯨の町鮎川、金華山など牡鹿半島 に散在する数多くの史跡等の紹介 書。	1-140 東北歴史資料館
文 献 名：浅海完全養殖 -浅海養殖の進歩 発行年月：昭和46年5月 発 行 所：(株)恒星社 厚生閣(東京) 著 者：今井丈夫	○浅海養殖の進歩について記述あ り。宮城県のノリ・カキ・ワカメ について詳しい。	1-454 水産研究開発センター
文 献 名：鹿折の歴史雑話 発行年月：昭和50年1月 発行主体：畠山泰二	○気仙沼市鹿折地区の郷土史研究書。 (大島瀬戸のイルカ漁、水産業の盛 衰等)	1-327 東北歴史資料館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：東北産業経済 第1巻仙台藩史 発行年月：昭和51年2月 発行所：(株)東洋書院 (東京) 編 者：浅野源吉	第8章 商工業 4 水産物(産地・産物紹介) 第9章 産業開発と人物 10 猪狩新兵衛(海苔養殖の基礎 を築く)	・419-435 ・461-462 東北歴史資料館
文 献 名：宮城県の昭和史 上巻 発行年月：昭和58年6月 発行所：毎日新聞社 (東京) 編 者：奥村芳太郎	水産業 ○獲る漁業(磯物採取、網・釣漁) から育てる漁業(養殖業)への変 遷について記述。	122-138 東北歴史資料館
文 献 名：宮城の郷土誌 発行年月：昭和58年10月 発行主体：仙台市民図書館 仙台市教育委員会	笹かまぼこの起こり 仙台鮭とは ○文書による郷土的なレファレンス 質問に対する回答事例集。	・・・28 ・359-361 石巻市図書館
文 献 名：浅海養殖 発行年月：昭和61年11月 発行所：(株)大成出版社 (東京) 編 者：(社)資源協会	○浅海養殖業の沿革について記述あ り。カキやマボヤ・ワカメの養殖 は宮城県で発達した。	1-648 水産研究開発センター
文 献 名：図説日本の歴史4 図説宮城県の歴史 発行年月：昭和63年6月 発行所：河出書房新社 (東京) 企画者：渡辺信夫	先史・古代(松島湾の貝塚と縄文文 化、海の幸を利用した生活) 近世(農村・漁村の風景、新しい漁 業技術-鰹釣漁・大規模捕鯨 業-を導入、上方へも移出さ れた海産物)	・・48-56 ・199-211 東北歴史資料館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：石巻の大正・昭和 発行年月：昭和63年 8 月 発行主体：石巻日日新聞社	第1部 大正期 苦しい財政打開に産業起こし (巾着網、捕鯨、サメ漁など) 大正期の災害、事件、事故 (海難事故など) 第2部 昭和初期 苦難の河口港大改修工事 (湊、門脇の魚市場開設など) 第3部 昭和中期 大災害を経て昭和50年代 (チリ津波など) 第4部 昭和後期 都市基盤の充実期 (新漁港建設など) 高度成長期から構造不況へ (花形の北転船、200カイリ時代など) 社会問題に発展の公害 (水産加工汚水など) 昭和後期の災害と事件 (沖底船遭難など)	・・30-36 ・・37-41 ・124-128 ・218-222 ・259-267 ・270-272 ・272-275 ・283-289 宮城県庁書庫室
文 献 名：松島物語 発行年月：昭和63年12月 発 行 所：あづま書房 (仙台) 著 者：小川澄夫	松島湾の風物誌 ○遠洋漁業の基地であった歴史、カ キ・ノリ養殖業の発展史などの記 述あり。	・121-211 石巻市図書館
文 献 名：貝のあゆみ 発行年月：平成元年 8 月 発行主体：酒井誠一	第1部 肴談義 11 寄磯浜の地名の由来とアワビ 第3部 宮城県における浅海養殖の 歴史(ノリ・カキ・ワカメ・マボ ヤ・ホタテガイ養殖業の起源と発 展の経緯)	・・52-55 ・115-179 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：全国養殖施設図集 発行年月：平成4年3月 発行主体：全国水産業改良普及職員協議会 著 者：今井丈夫	○宮城県のノリ・カキ・ホヤ・ギンザケ養殖について施設図を中心にして記述。	91-119 水産研究開発センター
文 献 名：東北学文庫 3 縄文にみる 東北人のこころ 発行年月：平成6年3月 発 行 所：河北新報社 (仙台) 企 画：宮城県	貝塚からみた縄文時代の生業 貝塚調査の変遷 海辺の漁撈活動 内水域における漁撈活動	120-145 東北歴史資料館
文 献 名：古里零れ話 唐桑史談 発行年月：平成6年5月 発行主体：加藤宣夫	○唐桑漁師と鰹漁、鯨塚等唐桑半島の調査研究による郷土史研究書。	1-396 東北歴史資料館
文 献 名：日本漁具・漁法 図説(増補改訂版) 発行年月：平成6年4月 発 行 所：(株)成山堂書店 (東京) 著 者：金田禎之	○宮城県の板曳網漁業、スズキまき網漁業、水晶型定置漁業、両簀だて漁業などについて解説あり。	1-637 水産研究開発センター
文 献 名：田代島むかしむかし -第2集- 発行年月：平成8年6月 発行主体：阿部勇雄	○石巻市田代浜に残る口伝・古文書や文献に基づく記述集。地理的に島という状況から漁業や海に関係する記述が殆ど。	1-241 石巻市図書館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：全訂・年表による 石巻の歴史 発行年月：平成8年7月 発行所：(株)ヤマトヤ書店 (石巻) 著 者：千葉賢一	年表 歴史小辞典 (石巻造船界の父、海難供養の起 こり等) 水産業の歴史	…1-94 ・121-184 ・115-120 石巻市図書館
文 献 名：日本漁業の展開過程 －戦後50年概史－ 発行年月：平成9年2月 発行所：舵社（東京） 著 者：岩崎寿男	○日本漁業の歴史概史	1-301 宮城県水産課

(2) 市 政 史 ・ 町 政 史

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：気仙沼市史 第1巻「自然編」 発行年月：昭和61年3月 発行主体：気仙沼市	第4章 海の産物 ○気仙沼港の魚介藻類、プランクトンなどを紹介。	・369-441 宮城県庁書庫室
文 献 名：気仙沼市史 第3巻「近世編」 発行年月：平成2年3月 発行主体：気仙沼市	第10章 産業 第5節 漁業 (藩政時代の漁業、カツオ船など) 第6節 海産物の流通 (江戸商人、四分問屋などの記述) 第23章 新産業の興隆 第1節 海苔養殖 (猪狩新兵衛の養殖成功)	・244-257 ・258-271 ・487-489 宮城県庁書庫室

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
<p>文 献 名：気仙沼市史 第 4 巻 「近代・現代編」 発行年月：平成 5 年 3 月 発行主体：気仙沼市</p>	<p>「近代編」 第 1 章 明治の夜明け 第 13 節 漁業 (明治初期の漁業、漁業組合遠洋漁業奨励法など) 第 14 節 水産加工 (ノリ、カツオブシなど) 第 15 節 缶詰、竹輪工業 (サメ肉の原料化など) 第 3 章 大正 (海の産業革命) 第 6 節 工業 (製氷工場、造船所等) 第 7 節 水産加工 (竹輪形成機、カツオブシなど) 第 8 節 漁船漁業 (ラッコ・オットセイ禁漁、かじき騒動など) 「現代編」 第 1 章 昭和前期 第 1 節 普通選挙の頃 (水試分場の設立、大東丸の活躍) 第 6 節 魚市場 (波路上の市場開設問題、沖買い船など) 第 8 節 漁業 (カキ養殖、内の脇漁民など) 第 9 節 漁船漁業 (100トン時代の到来、静岡県船の移入など) 第 10 節 工業 (製氷事業、竹輪工業組合など)</p>	<p>・79-98 ・99-117 ・118-130 ・320-332 ・333-339 ・340-352 ・379-383 ・420-428 ・433-439 ・440-448 ・449-454</p> <p>宮城県庁書庫室</p>
<p>文 献 名：気仙沼市史 第 6 巻 「教育・文化編」 発行年月：平成 4 年 2 月 発行主体：気仙沼市</p>	<p>第 5 章 商業学校の教育 第 4 節 宮城県気仙沼水産高等学校 ○気水高の歴史</p>	<p>・304-312</p> <p>宮城県庁書庫室</p>

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：気仙沼市史 第7巻 「宗教・民俗編」 発行年月：平成6年2月 発行主体：気仙沼市	第2章 生業 第1節 漁業 (和船の種類、造船儀礼、アンバ 信仰など)	・56-89 宮城県庁書庫室
文 献 名：本吉町史 発行年月：昭和57年3月 発行主体：本吉町	第3編 近世 第3章 産業と通運 第2節 藩政時代の漁業 (大網の由来、漁業の歴史について) 第5編 各論 第8章 産業 第3節 漁業 (漁業権、大網の経営、四季の漁 業など)	・348-378 1209-1272 宮城県庁書庫室
文 献 名：歌津町史 発行年月：昭和61年3月 発行主体：歌津町	第3編 各論 第9章 産業 第2節 漁業 ○漁業権、水産加工業、漁協の改革 など	・895-957 宮城県庁書庫室
文 献 名：志津川町史Ⅱ (生活の歓び) 発行年月：平成元年11月 発行主体：志津川町	第1章 志津川の生業 第2節 漁業とその習わし ○磯ものどりなどの漁業の実態と習 俗の詳細等の変遷。 ＊このほか随所に漁業との関係記述 あり。	・47-167 宮城県庁書庫室
文 献 名：北上町 百年のあゆみ 発行年月：昭和50年3月 発行主体：北上町史 編纂委員会	十三浜漁業協同組合の概要	・207-211 宮城県庁書庫室

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：雄勝町誌 発行年月：昭和41年11月 発行主体：雄勝町	第3編 近代 第1章 近代制度下における町勢の推移 第5節 町勢の推移 (經一本釣り漁業についての記述あり) 第4編 現況 第7章 産業 (ワカメ養殖、カキ養殖など)	・385-460 ・735-761 宮城県庁書庫室
文 献 名：女川町史 発行年月：昭和35年8月 発行主体：女川町	第3編 産業・経済 第1章 女川の漁業 第1節 明治以前の漁業 (大正～藩政期の漁業) 第2節 明治以後の漁業 (明治～戦後の漁業) 第3節 女川町魚市場の設置 第4節 女川漁業の生産組織 第5節 女川漁業の経営形態 第6節 女川町の漁業協同組合 第7節 資本家と労働者 第8節 女川漁業の基盤「サッパ」 第9節 わが国の捕鯨と女川港 第10節 国際漁業問題と女川の漁業 第10編 江島・出島 第1章 江島の地誌 第2節 江島の漁業 (漁業の共同権、歴史的な記録など) 第2章 出島の地誌 第2節 出島の住民と生業 (出島の採介漁業の紹介)	・305-320 ・321-340 ・341-351 ・352-356 ・357-362 ・363-369 ・370-387 ・388-393 ・394-403 ・404-408 ・838-852 ・868-870 宮城県庁書庫室

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：牡鹿町史 発行年月：昭和41年11月 発行主体：雄勝町	○11の集落ごとに分けて水産業、漁業の関係等について記述。	・115-880 宮城県庁書庫室
文 献 名：渡波町史 発行年月：昭和34年5月 発行主体：渡波町 (現在は石巻市)	自然環境（魚市場で見られる魚介類） 産業（幕末から戦後までの経過など。 水産試験場の記述あり） 官公署と諸団体 宮城県水産試験場 渡波魚市場 (その他の造船所、漁業組合の記述あり) 教育 宮城県水産高等学校	・21-28 ・281-356 ・409-414 ・425-441 ・528-531 宮城県庁書庫室
文 献 名：石巻市史 第1巻 発行年月：昭和28年12月 発行主体：石巻市	第5章 産業 (魚市場制度の原点と北上川の献上鮭) 漁業と問屋制度 海産物の輸出 (干ナマコ、アワビの輸出) 北上の鮭鱒漁(税金に関する記述) 海産物課税 魚介漁獲の制限 (原始的な漁業の苦難)	・375-377 ・378 ・379-381 ・381-382 ・383-386 宮城県庁書庫室
文 献 名：石巻市史 第2巻 発行年月：昭和31年10月 発行主体：石巻市	第12章 漁港の建設 ○法律の制定、修築計画、国鉄臨港線など。	・251-258 宮城県庁書庫室
文 献 名：石巻市史 第4巻 発行年月：昭和37年7月 発行主体：石巻市	第20 産業史 第1章 水産 ○旧藩時代～近代の水産業について詳細に記述。カキ、カマボコ、施網、無線局など。	・176-207 宮城県庁書庫室

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：矢本町史 第3巻 発行年月：昭和51年3月 発行主体：矢本町	第7編 大正・昭和初期 第2章 農漁業生産の発展と経済恐慌、災害発生 第1節 農漁業生産の発展 （一部に漁業生産の記述あり）	・311-318 宮城県庁書庫室
文 献 名：矢本町史 第5巻 発行年月：昭和51年3月 発行主体：矢本町	第9編 敗戦と混乱 第6章 産業諸団体の再編 第2節 漁業協同組合 （漁業会の解散など） 第10編 復興から築港 第3章 農業諸団体と農政諸機関 第2節 漁業協同組合 （漁業指導、沿構事業など）	・111-115 ・291-299 宮城県庁書庫室
文 献 名：鳴瀬町史 （改訂版） 発行年月：昭和60年10月 発行主体：鳴瀬町	第11章 産業 第2節 水産業 ○藩政～現在の漁業、浜市の漁業など。	・775-830 宮城県庁書庫室
文 献 名：松島町史 発行年月：平成3年3月 発行主体：松島町	「近世論」 第3章 産業の発達 第6節 水産業 ○明治以来の漁業戸数の変化など 「現代論」 第2章 産業と観光 第1節 産業 ○のり・かき養殖の変化など	・544-549 ・891-931 宮城県庁書庫室

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：塩釜市史 I 発行年月：昭和30年7月 発行主体：塩釜市	第3編 近世（伊達藩時代）の塩釜 第3章 漁港としての塩釜の変遷 1 藩政時代の漁業の概観 （主要海産物、販売統制など） 2 漁港としての塩釜の変遷 （漁船入港指定、商人との紛争 など）	・306-334 ・335-365 宮城県庁書庫室
文 献 名：塩釜市史 II 発行年月：昭和30年7月 発行主体：塩釜市	第3編 塩釜の村制、町制時代 第12章 塩釜魚市場の設立 ○魚市場移転問題、株式会社の設立 など。	・416-463 宮城県庁書庫室
文 献 名：塩釜市史 VI 発行年月：昭和30年7月 発行主体：塩釜市	塩釜魚市場史 ○藩政治、明治、大正、昭和、戦後 及び新魚市場の開設など。	・505-846 宮城県庁書庫室
文 献 名：利府町史 発行年月：昭和61年3月 発行主体：利府町	第11章 産業と経済 第8節 漁業 ○漁業概況の記述。	・679-681 宮城県庁書庫室
文 献 名：七ヶ浜町史 発行年月：昭和42年3月 発行主体：七ヶ浜町	藩政時代の漁業 （シラウオ網、海上年貢など） 水産業 （漁業の歴史、のり養殖の振興など） ＊その他、集落ごとに漁業との関わり について詳細な記述あり。	・145-153 ・267-305 宮城県庁書庫室

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：名取市史 発行年月：昭和52年3月 発行主体：名取市	第5編 近代 第5章 産業経済 第5節 水産業 ○年代ごとに分けて漁業の歴史を記載。	・687-694 宮城県庁書庫室
文 献 名：亶理町史 発行年月：昭和50年10月 発行主体：亶理町	第4編 明治時代 第11章 漁業の近代化 第4節 荒浜と水産業 (荒浜のサケ漁、イサバ問屋など) 第8編 現在の亶理町 第14章 水産業と荒浜漁港 第1節 水産業 第2節 亶理町漁業協同組合 (漁協の設立に関して)	・902-906 ・664-683 ・684-687 宮城県庁書庫室
文 献 名：山元町史 発行年月：昭和46年1月 発行主体：山元町	第3編 現代史 第4章 産業・経済 第3節 水産業 ○漁協や漁業の移り変わり	・381-765 宮城県庁書庫室

2. 漁村の伝統的文化

(1) 民俗・習俗

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：陸前北部の民俗 発行年月：昭和44年 3 月 発 行 所：吉川構文館 (東京) 編 者：和歌森太郎	第3章 漁撈文化の特色 (亀山慶一著) 1 漁撈技術 2 漁民の信仰 3 風の呼称 ○唐桑町から牡鹿町の漁村伝承資料 に基づいて記述。	177-189 東北歴史資料館
文 献 名：東北民俗資料集 (3) 発行年月：昭和49年 1 月 発 行 所：萬葉堂書店 (仙台) 編 者：岩崎敏夫	4 タテマエとフナオロシ 名取市閑上ー御神入れとフナ オロシ 石 卷 市ー御神入れ 15 宮城県南地方の禁忌俗信 牡鹿半島東部 ○東北学院大学民俗学研究室卒業論文集	・・97-100 ・211-212 東北歴史資料館
文 献 名：東北民俗資料集 (5) 発行年月：昭和51年 5 月 発 行 所：萬葉堂書店(仙台) 編 者：岩崎敏夫	8 陸前江島の生活 9 牡鹿半島における社会生活 ○東北学院大学民俗学研究室卒業論文集	・161-187 ・188-198 東北歴史資料館
文 献 名：郷土の伝承 宮城の民俗誌 発行年月：昭和56年 6 月 発 行 所：セイトウ社 (仙台) 編 集：宮城県教育委員会	第1輯 民間伝承 第2輯 郷土の伝承 第3輯 郷土の伝承 ○宮城県各地(沿海地方・内水面関 係を含む)の信仰・習俗・年中行 事について収録。	・・1-240 ・・1-201 ・・1-268 東北歴史資料館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：北上川の民俗文化 発行年月：昭和58年4月 発行所：(株)ひたかみ(石巻) 著 者：小野寺正人	○北上川を舞台に繰りひろげられてきた舟運や川漁、あるいは民間信仰などの民俗文化に関して記述。	1-239 東北歴史資料館
文 献 名：東北民間信仰の研究 下巻 発行年月：昭和58年5月 発行所：名著出版(東京) 著 者：岩崎敏夫	第2篇 東北地方の祭の祖型 塩釜神社藻塩焼神事 第3篇 民間信仰の研究課題 五 東北の山と海の信仰 船霊信仰等 (塩釜・石巻・江島等の調査による)	・106-129 ・303-305 東北歴史資料館
文 献 名：山村海村民俗の研究 発行年月：昭和59年10月 発行所：名著出版(東京) 編 者：柳田国男ほか	海村調査報告 (民間傳承の會，昭和13年版) 陸前氣仙郡の村組織と磯の利用 ○文部省日本學術振興會の補助による沿海村落郷土生活の統一調査報告書。	5-12 東北歴史資料館
文 献 名：東北の民俗 海と川と人 考古民俗叢書 24 発行年月：昭和63年7月 発行所：慶友社(東京) 編 者：国分直一， 高松敬吉	陸前地方の海と信仰 (三崎一夫著) 1 漁撈神 2 海の祭祀 3 漂着神 4 大漁祈願と祝い 5 造船儀礼と船霊様 6 漁撈と禁忌 7 海難者と供養 8 海の怪異 ○宮城県の漁浦における海と漁撈に関わる信仰傳承の諸相についての報告。	247-267 石巻文化センター
文 献 名：白い国の詩 民俗編 発行年月：昭和63年9月 発行主体：東北電力	○鮭漁等主として内水面漁業に関する信仰・年中行事・文化などについて記述。	1-189 石巻市図書館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：陸前の漁撈文化と 民間信仰 発行年月：平成3年6月 発 行 所：ヤマト屋書店 (石巻) 著 者：小野寺正人	第1篇 陸前の漁撈文化 第2篇 陸前の民間信仰と伝説 ○三陸沿岸と北上川流域の漁撈習俗 ・伝承に関して記述。	・4-111 ・112-210 石巻文化センター
文 献 名：宮城の民間信仰 その他 発行年月：平成7年5月 発 行 所：(株)セイトウ社 (仙台) 著 者：三崎一夫	I 民間信仰 陸前地方の海と信仰 1 漁撈神 2 海の祭祀 3 漂着神 4 大漁祈願と祝い 5 造船儀礼と船霊様 6 漁撈と禁忌 7 海難者と供養 8 海の怪異 IV 口承説話 陸前民譚抄 海の怪モウレン V 和船研究 陸前地方の磯船と川船	・109-129 ・349-351 ・355-400 石巻文化センター

(2) 風 土 ・ 文 化

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：北海道・東北地方 の民具 発行年月：昭和57年9月 発行所：(株)明玄書房(東京) 編 者：戸川安章	第2篇 農耕・漁撈 陸前地方の磯船（三崎一夫著） ○宮城県地方に限った漁浦の磯船に ついてその構造を述べ、伝承的造 船技術と船大工の習俗について言 及している。	・125-145 石巻市図書館
文 献 名：宮城風土記 ① 発行年月：昭和59年6月 発行所：(株)宝文堂 （仙台） 編 者：朝日新聞社仙台支局	○広瀬川のサケ・アユ、田代島のア ワビ漁、松島の定置網漁、カキ養 殖、ハゼ釣など伝統的漁業等につ いて記述。	1-301 石巻市図書館
文 献 名：宮城県風土記 発行年月：昭和62年10月 発行所：(株)宝文堂 （仙台） 編 者：戸川安章	第2部 美しいふるさと 第1章 美しいふるさと （各地の水産業の風景等） 宮城の味 （水産物を豊富に使った郷 土料理）	・178-289 石巻市図書館
文 献 名：日本の食生活全集 4 聞き書宮城の食事 発行年月：平成2年2月 発行主体：(社)農山漁村文化協会	○県内各地の伝統料理について詳細 に記述あり。 （食材としての農林水産物及び食 文化）	1-357 水産研究開発センター
文 献 名：図録・山漁村生活 史事典 発行年月：平成3年1月 発行所：柏書房(株) （東京） 編 者：秋山高志ほか	II 漁村に生きる人々 1) 支配としくみ 2) 淡水の漁法と漁具 3) 海の漁法と漁具 4) 水産加工物 5) 養殖・養魚 6) 流通・販売 7) 漁村の暮らし ○江戸時代の漁村生活と生産活動の 図解集。	82-196 石巻市図書館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：東北民家研究 発行年月：平成3年4月 発 行 所：中央公論美術出版 (東京) 著 者：草野和夫	第2編 各地域民俗史 第21章 桃生・牡鹿地方の漁民住居 ○民家形態の前後関係や、その成立 時期を明らかにし、各地域の民家 史と東北地方民家史について記述。	345-355 東北歴史資料館
文 献 名：江戸時代 人づくり風土記④ ふるさとの人と知恵 宮城 発行年月：平成6年5月 発行主体：(社)農山漁村文化協会	第2章 生業の振興と継承の中で 7 三陸近海の大物漁業 (マグロ網漁、カツオ溜釣など) 10 三陸の海で活躍した人々 (漁師特有のお呪いや信仰、行 事等、今に伝わる風俗につ いて)	・138-145 ・160-166 東北歴史資料館
文 献 名：明治時代の 水産絵図 発行年月：平成7年6月 発行主体：大田区立郷土博物館	○大田区立郷土博物館が平成7年6 月4日から7月2日まで開催した 特別展「明治時代の水産絵図」の 図録。	1-136 水産研究開発センター
文 献 名：自然と風土 「南三陸」 石巻から唐桑へ 発行年月：平成7年8月 発行主体：河北新報社	○唐桑町から石巻市までの沿岸市町 の産業と歴史・文化に関する記述。 (津波の追憶、陸前浜の神々と祭 りなど)	1-127 石巻市図書館
文 献 名：海の文化誌 発行年月：平成8年6月 発 行 所：雄山閣出版(株) (東京) 著 者：田村 勇	4 神とほとけと竜宮城 (塩釜・金華山等の信仰に関する 記述) 5 海の怪異とタブー (三陸沿岸に伝わる海の怪異につ いて記述)	・44-57 ・58-70 石巻市図書館

(3) 調査研究機関別発行図書

A 東北学院大学東北文化研究所

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
<p>文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：昭和61年7月 発 行 所：東北学院大学 東北文化研究所 (紀要18号) 著 者：大江篤志</p>	<p>第一部 問題と方法 第二部 宮城県江島におけるアワビ釣漁 I 対象地域について II 江島地域におけるアワビ釣漁の 位置と形態 III アワビ釣漁の展開 IV アワビ釣漁の構造 V 開口の規定要因</p>	<p>143-214 東北学院大学</p>
<p>文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：昭和62年8月 発 行 所：東北学院大学 東北文化研究所 (紀要19号) 著 者：大江篤志</p>	<p>VI アワビ採捕の規定要因 VI-1 アワビ採捕場面を構成する役 割とそのダイナミックス VI-2 舟内成員の関係 VI-3 漁場選択のダイナミックス</p>	<p>231-270 東北学院大学</p>
<p>文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：平成元年8月 発 行 所：東北学院大学 東北文化研究所 (紀要21号) 著 者：大江篤志</p>	<p>VI-4 成員の認知と行動：アワビの 発見とその阻害要因 VI-5 成員の認知と行動：アワビの 採捕とその阻害要因 VI-6 漁場の移動</p>	<p>103-156 東北学院大学</p>

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：平成2年8月 発 行 所：東北学院大学 東北文化研究所 (紀要22号) 著 者：大江篤志	VII アワビ鉤漁にみられる歴史的 変化と現在 VII-1 江島漁業におけるアワビ漁の 形態と位置 VII-2 開口, VII-3 漁撈具 VII-4 漁撈具の変化：知識と技術の消失 VII-5 アワビ漁業の地域的近代化 過程 VII-6 密漁 VIII アワビ鉤漁を場とする人の移 動と変化 VIII-1 舟内成員の移動サイクル	90-162 東北学院大学
文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：平成3年8月 発 行 所：東北学院大学 東北文化研究所 (紀要23号) 著 者：大江篤志	VIII-2 アワビ鉤漁の舟内構成をめぐる 条件とその変化 VIII-3 江島における過疎－高齢化の 進行過程 VIII-4 地域中学生の進路選択過程と その準抛枠 VIII-5 進路選択の準抛事態としての 成人－青年層の生活展望 VIII-6 伝統的移動サイクルの失調下 におけるアワビ採捕行動 VIII-7 日はまた昇る	132-192 東北学院大学
文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：平成4年8月 発 行 所：東北学院大学 東北文化研究所 (紀要24号) 著 者：大江篤志	第三部 考察と結論 I 社会化概念の検証のための枠組み II 社会化の共通モデルの定式化 III 「アワビ鉤漁」のカテゴリー	124-164 東北学院大学

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：平成6年8月 発 行 所：東北学院大学東北文化 研究所(紀要26号) 著 者：大江篤志	IV 共通モデルの検証 IV-1 カテゴリーAにおける行動 の定式化	31-76 東北学院大学
文 献 名：伝統漁撈をめぐる 社会化 発行年月：平成7年8月 発 行 所：東北学院大学東北文化 研究所(紀要27号) 著 者：大江篤志	IV-2 カテゴリーBにおける行動 の定式化	112-144 東北学院大学

B 宮城県

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法 I 南部地区 (松島湾周辺) 発行年月：昭和63年3月 発行主体：宮城県水産試験場	○漁業の近代化・機械化に伴い消え ようとしている伝統的漁法の記録 を残し、かつ沿岸漁業の発達の経 緯を知るための調査報告書。Iで は、松島湾を中心とする県南部海 域で調査した結果を取りまとめた。	1-40 水産研究開発センター
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法 II 中部地区 発行年月：平成元年3月 発行主体：宮城県水産試験場	○漁業の近代化・機械化に伴い消え ようとしている伝統的漁法の記録 を残し、かつ沿岸漁業の発達の経 緯を知るための調査報告書。IIで は、地形的に複雑で、多種多様 な漁業が見られる中部地区で調査 した結果を取りまとめた。	1-83 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法 Ⅲ 北部地区 発行年月：平成2年3月 発行主体：宮城県水産試験場	○漁業の近代化・機械化に伴い消えようとしている伝統的漁法の記録を残し、かつ沿岸漁業の発達の様相を知り、より良い漁業を考えるための調査報告書。Ⅲでは北部地区に加えて、県内で明治時代に行われた主な地域別漁法も掲載している。	1-89 水産研究開発センター
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法 Ⅳ 南三陸の和船 (カッコ) 発行年月：平成3年3月 発行主体：宮城県水産試験場	○漁業の近代化・機械化に伴い消えようとしている伝統的漁法の記録を残し、かつ沿岸漁業の発達の様相を知り、今後の沿岸漁業を考えるための調査報告書。Ⅳでは、南三陸の和船及び各浜での習慣や伝承を記述した。	1-89 水産研究開発センター
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法 Ⅴ 内水面 発行年月：平成4年3月 発行主体：宮城県水産試験場	○古くから改良されつつ伝えられてきた漁業技術の記録を残し、今後の漁業を考えるための調査報告書。Ⅴでは、内水面の漁業について取りまとめた。	1-107 水産研究開発センター
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法 Ⅵ 養殖編 (のり) 発行年月：平成5年3月 発行主体：宮城県	○古くから盛んに行われている海面養殖業について取りまとめた報告書。Ⅵでは「のり」を対象とした。	1-69 水産研究開発センター
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法 Ⅶ 養殖編 (かき) 発行年月：平成6年3月 発行主体：宮城県	○古くから盛んに行われている海面養殖業について取りまとめた報告書。Ⅶでは「かき」を取りあげた。	1-55 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：宮城県の伝統的 漁具漁法Ⅷ 養殖編 (わかめ・こんぶ) 発行年月：平成7年3月 発行主体：宮城県	○古くから盛んに行われている海面 養殖業について取りまとめた報告 書。ワカメ・コンブ生産の歴史・ 関連文化についての記述がある。	1-101 水産研究開発センター

C 東北歴史資料館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：手漕ぎ船建造にみ られる刳貫き技法 の継承（その1） 発行年月：昭和57年3月 発 行 所：東北歴史資料館 (研究紀要8巻) 著 者：田中幹夫	○三陸沿岸に現存する「カッコブネ」 という同じ名称をもち、いずれも 刳貫き技法を使用して建造された 手漕ぎ船を取り上げ、その特徴、 建造の手順、基準寸法の概要と実 測図などについて記述。その1で は、三陸沿岸北部型カッコブネを 扱った。	33-56 東北歴史資料館
文 献 名：手漕ぎ船建造にみ られる刳貫き技法 の継承（その2） 発行年月：昭和58年3月 発 行 所：東北歴史資料館 (研究紀要9巻) 著 者：田中幹夫	○三陸沿岸に現存する「カッコブネ」 という同じ名称をもち、いずれも 刳貫き技法を使用して建造された 手漕ぎ船を取り上げ、その特徴、 建造の手順、基準寸法の概要と実 測図などについて記述。その2で は、歌津型カッコブネを扱った。	35-68 東北歴史資料館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：三陸沿岸の漁村と 漁業習俗（上巻） 発行年月：昭和59年 3 月 発行主体：東北歴史資料館	○手漕ぎ船時代に生きた地先漁業の 数少ない体験者の話をもとに、当 時の漁撈・漁村の生活・漁業に関 する習俗を記録した報告書。 （調査地：石巻市月浦、牡鹿町寄 磯、歌津町名足、気仙沼市四ヶ 浜、唐桑町鮪立等）	1-140 東北歴史資料館
文 献 名：三陸の漁業 手こぎ船のころ 発行年月：昭和60年 9 月 発行主体：東北歴史資料館	○手こぎ船が活躍したころを中心 に三陸の漁業史を概説し、人々のく らしを理解するための手びき書。	1-40 東北歴史資料館

D 仙台市歴史民俗資料館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：仙台市荒浜の民俗 発行年月：昭和56年 3 月 発行主体：仙台市歴史民俗 資料館 （調査報告 2 集）	○仙台市内で唯一漁村民俗資料を保 存している荒浜地区において、生 産・生業・民俗知識・信仰等の基 礎的日常生活の記録と保存、保護 と活用を図るための報告書。	1-78 仙台市歴史民俗資料館
文 献 名：仙台山のくらし 海のくらし －坪沼と荒浜－ 発行年月：昭和61年 7 月 発行主体：仙台市歴史民俗 資料館	II 海のくらし－荒浜－ ○昭和初期の仙台市荒浜地区を、生 業を中心に改めて見直したいと考 えた特別展の解説書。	34-71 仙台市歴史民俗資料館

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：広瀬川流域の民俗 発行年月：平成2年3月 発行主体：仙台市歴史民俗 資料館 （調査報告9集）	1 広瀬川水域の環境 2 広瀬川水域の漁撈習俗調査 3 歴史資・史料にみる広瀬川水域 の漁労 (1) 原始・古代 (2) 中世 (3) 近世 (4) 近代 4 広瀬川水域の漁撈習俗 (1) 上流域 (2) 中流域 (3) 下流域	30-70 仙台市歴史民俗資料館
文 献 名：広瀬川流域の 民俗 I -20世紀 仙台のマチとムラー 発行年月：平成2年9月 発行主体：仙台市歴史民俗 資料館	○広瀬川流域の漁撈や民俗に関し、 明治・大正・昭和と各地でみられた 生業・日常生活をとおして人々の暮 らしを考えた企画展の解説書。	1-31 仙台市歴史民俗資料館

E 石巻文化センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：三陸沿岸の 漁撈用具 -磯漁を中心として- 発行年月：平成4年7月 発行主体：石巻文化センター	○三陸沿岸の磯漁を中心に伝統的漁 具・漁法を再認識するとともに、 その変遷や地域間の相違・特色を 考えた企画展の解説書。	1-48 石巻文化センター
文 献 名：江島サッパの 造船工程 発行年月：平成5年3月 発行主体：石巻文化センター	○伝統的木造和船とその造船技術の 保存を図るべく、アワビ漁に用い られた「江島サッパ」を復元建造 し、その造船工程を調査した資料 集。	1-38 石巻文化センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：アワビカギ漁と カギの形態 発行年月：平成7年3月 発 行 所：石巻文化センター (調査研究報告3号) 著 者：成田 暢	1 アワビカギ漁の歴史と現在 2 アワビカギ漁の実際 3 アワビカギの形態と分布	5-15 石巻文化センター

F 宮城県教育委員会等

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：石巻地方の歴史と 民俗 発行年月：昭和48年8月 発行主体：石巻工業高等学校	石巻市田代島仁斗田貝塚 女川町出島山下貝塚第二次調査報告 ○貝塚より出土した遺物（釣針・貝 製品等）から当時の「歴史と民俗 （漁法を含む）」を調査・推定した。	・・5-24 ・・25-48 石巻文化センター
文 献 名：宮城の古民家 宮城県民家緊急調 査報告 発行年月：昭和49年3月 発行主体：宮城県教育委員会	○失われつつある県下の農家・漁家 ・商家等の中から、特色ある近世 民家を対象として調査した結果の 報告書。	1-193 東北歴史資料館

(4) 研究連絡誌等

A 東北民俗（東北民俗の会発行）

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：陸前田代島の 大謀網漁 発行年月：昭和56年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗15輯） 著 者：小野寺正人	○牡鹿半島周辺における鮪大網のうち、田代島の大網について、特に編み縄時代の漁撈習俗を纏めてある。	41-48 石巻文化センター
文 献 名：弘化 4 年の大時化 と鯉船の難船 発行年月：昭和60年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗19輯） 著 者：小野寺正人	○三陸沖における鯉漁の最盛期におきた弘化 4 年(1847)の大時化は気仙郡より牡鹿半島に至る漁浦の鯉船を百数隻も難船させるという仙台藩最大の海難事故をもたらし、この事故についての記述あり。	31-41 石巻文化センター
文 献 名：序説東北太平洋岸 の磯船 発行年月：昭和60年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗19輯） 著 者：三崎一夫	○沿岸漁業で伝統的に使用されてきた最も一般的な磯船（従来の木造船）の調査・研究に関する記述。	41-51 石巻文化センター
文 献 名：三陸の漁村と他地 域のつながり 発行年月：昭和61年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗20輯） 著 者：田中幹夫	1 漁法・漁具とその資材の伝播と導入の事例 2 漁業資材の入手先の事例 3 食糧・日用品などの入手の事例	32-38 石巻文化センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：三陸沿岸における 信仰形態について 発行年月：昭和61年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗20輯） 著 者：佐藤 陸	○東北太平洋沿岸における信仰に関 する 2、3 の事例から信仰形態の 地域性や特性を浮き彫りとした。	39-46 石巻文化センター
文 献 名：ムラ境をめぐる民俗 －三陸沿岸におけ る漁村の場合－ 発行年月：昭和61年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗20輯） 著 者：小野寺正人	○海においては、生産活動の場とし ての境界はあるものの、信仰現象 としてのムラ境が陸のようには設 定されていない。この特性に関す る記述。	47-53 石巻文化センター
文 献 名：陸前地方の造船儀 礼について 発行年月：昭和62年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗21輯） 著 者：三崎一夫	○手斧立て、船霊様、船下ろし等船 大工の信仰について記述。	40-45 石巻文化センター
文 献 名：鮪船におけるカシ キの宗教的役割 発行年月：平成 2 年 5 月 発 行 所：東北民俗の会 （東北民俗24輯） 著 者：川島秀一	○鮪船における通過儀礼・呪術・カ シキ（炊事役兼儀礼役）の宗教的 役割について記述。かつて鰹は 「神魚(かみよ)」とって神の魚と されていた。	13-23 石巻文化センター

B 漁村（漁村文化協会発行）

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村と伝承(一) 発行年月：昭和60年12月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 51 (12) 著 者：川島秀一	○宮城県唐桑町鮪立 ー浜田徳之翁ー 浜田徳之氏が伝承した天候予察の 言い伝え等の自然現象や山ばかり 等をとおして同氏を紹介。	39-43 水産研究開発センター
文 献 名：三陸の漁業の変遷 を見る 発行年月：昭和61年1月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 52 (1)	○三陸沿岸の漁業を江戸・明治時代 を中心に変遷の概要を紹介。	45-48 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(二) 発行年月：昭和61年1月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 52 (1) 著 者：川島秀一	○宮城県気仙沼市字大浦 ー船大工・鈴木梅松棟梁ー 鈴木梅松氏から聞いた船大工や船 に関する伝承等を通して同氏を紹介。	60-64 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(三) 発行年月：昭和61年2月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 52 (2) 著 者：川島秀一	○宮城県陸前大島 ー村上清太郎翁ー 漁師村上清太郎氏の話を通してカ シキやドウマワリの宗教的役割、 漁師の信仰等を紹介。	38-43 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(四) 発行年月：昭和61年3月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 52 (3) 著 者：川島秀一	○気仙沼市小々汐 ー尾形栄七翁ー 気仙沼地方に伝わる大漁した時に 歌われる「大漁唄い上げ」の調査 を通して尾形栄七氏を紹介。	81-87 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村と伝承(五) 発行年月：昭和61年4月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (4) 著 者：川島秀一	○宮城県唐桑町神の倉 ー千葉富賀雄翁ー 千葉富賀雄氏が伝える虎舞やサッ パ船等を通して漁村の芸能を考 察。	57-61 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(六) 発行年月：昭和61年5月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (5) 著 者：川島秀一	○尾形長吉翁の昔話 気仙沼小々汐の尾形長吉氏から 聞いた話を通して漁村における昔 話の位置づけ、昔話の伝承等を記 述。	80-85 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(七) 発行年月：昭和61年6月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (6) 著 者：川島秀一	○山バカリの伝承 広い海上で船の位置を決める山バ カリについて気仙沼地方の伝承等 を記述。	74-80 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(八) 発行年月：昭和61年7月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (7) 著 者：川島秀一	○船幽霊の伝承 三陸沿岸の漁師達が海をどのよう に考え、恐れ敬ったか、船幽霊と いう伝説を中心に記述。	38-44 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(九) 発行年月：昭和61年8月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (8) 著 者：川島秀一	○カシキの伝承 カシキの宗教的役割、それを持つ に至った背景等を記述。	64-71 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村と伝承(十) 発行年月：昭和61年9月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (9) 著 者：川島秀一	○大漁歌の伝承 三陸地方の大漁唄い込みの構成、 分類、伝承などについて記述。	88-97 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(11) 発行年月：昭和61年10月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (10) 著 者：川島秀一	○アンバ様の伝承 千葉県から岩手県までの主として 太平洋岸の漁村で信仰されている アンバ様について、その由来、伝 承等を記述。	57-65 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(12) 発行年月：昭和61年11月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (11) 著 者：川島秀一	○ホラ話の伝承 気仙沼沿岸に伝わるホラ話を通し て漁村でのホラ話の位置づけ等を 記述。	57-63 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(13) 発行年月：昭和61年12月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 52 (12) 著 者：川島秀一	○伝承の現場について 民俗研究における伝承内容の伝え られ方、伝承者、伝承の現場等調 査の問題点を記述。	98-103 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承(14) 発行年月：昭和62年1月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 53 (1) 著 者：川島秀一	○六部の伝承 六部は諸国の社寺を遍歴する行脚 僧のことであるが、彼等は気仙沼 地方の漁村でどのように受け入れ られていたかを記述。	57-63 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村と伝承 (15) 発行年月：昭和62年 2 月 発行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 53 (2) 著 者：川島秀一	○六部の伝承 II 六部は気仙沼地方の漁村で、どのような存在で、どのようなものを伝えたかを記述。	82-89 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (16) 発行年月：昭和62年 3 月 発行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 53 (3) 著 者：川島秀一	○ホイドの伝承 ホイド（乞食）との関わりを通して、漁村の習俗を記述。	57-65 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (17) 発行年月：昭和62年 4 月 発行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 53 (4) 著 者：川島秀一	○座頭の伝承 漁村における座頭の芸能や宗教へのかかわりを記述。	82-91 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (18) 発行年月：昭和62年 5 月 発行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 53 (5) 著 者：川島秀一	○巫女の伝承 漁村において、巫女が果たした役割や伝承について記述。	74-81 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (19) 発行年月：昭和62年 6 月 発行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 53 (6) 著 者：川島秀一	○河童の伝承 気仙沼地方の漁村に伝わる河童についての言い伝えを紹介。	60-69 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村と伝承 (20) 発行年月：昭和62年7月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 53 (7) 著 者：川島秀一	○昔話の伝承 気仙沼地方の漁村で昔話はどのように話され、どのようにとらえられていたかを記述。	57-69 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (21) 発行年月：昭和62年8月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 53 (8) 著 者：川島秀一	○モノバナシの伝承 不思議な話や妖怪の話等をモノバナシと呼んでいるが、これがどのように話されているかを記述。	57-65 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (22) 発行年月：昭和62年9月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 53 (9) 著 者：川島秀一	○芸能の伝承 漁村における芸能について漁村の人の移動や宗教的背景などから記述。	81-89 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (23) 発行年月：昭和62年10月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 53 (10) 著 者：川島秀一	○ウタの伝承 昔の人のウタに対する関わり方と生活におけるウタの重要性を漁村を舞台にして記述。	81-89 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (24) 発行年月：昭和62年11月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 53 (11) 著 者：川島秀一	○山の漁師と海の漁師 気仙沼地方のような山と海に挟まれた漁村では、山と海をどのようにとらえていたか昔話や言い伝えなどをもとに記述。	81-89 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村と伝承 (25) 発行年月：昭和62年12月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 53 (12) 著 者：川島秀一	○禁忌の伝承 漁村における禁忌について、事例をもとに背景、考え方などを記述。	82-91 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (26) 発行年月：昭和63年1月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 54 (1) 著 者：川島秀一	○カバネヤミの伝承 気仙沼地方では怠け者のことをカバネヤミと言う。このカバネヤミと関連づけて釣りの神様であるエビス様や、さらにナマハゲ、カセドリ等の行事を記述。	82-91 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (27) 発行年月：昭和63年2月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 54 (2) 著 者：川島秀一	○怪魚の伝承 鮭、鱈等漁村における旧家の発生に係わる怪魚の伝承を記述。	57-66 水産研究開発センター
文 献 名：漁村と伝承 (28) 発行年月：昭和63年3月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 54 (3) 著 者：川島秀一	○言葉の伝承・ハナシの伝承 漁村に残る信仰に裏付けされた言葉とハナシについて言い伝え等をもとに記述。	57-65 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (1) 発行年月：昭和63年4月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 54 (4) 著 者：川島秀一	○ハナシのハナシ 気仙沼市小ご汐の尾形栄七翁から聞いた昔話を紹介。	62-67 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村の民話 (2) 発行年月：昭和63年 5 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (5) 著 者：川島秀一	○年中行事と昔話 五月節句のヨモギとショウブの昔話等を例に、行事と昔話の関係を記述。	84-90 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (3) 発行年月：昭和63年 6 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (6) 著 者：川島秀一	○婚姻と昔話 「里見」といわれる婚姻に伴う習慣についての昔話を紹介。	57-62 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (4) 発行年月：昭和63年 7 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (7) 著 者：川島秀一	○猫と漁師 化け猫話等をとおし、漁師と猫の関係を記述。	57-63 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (5) 発行年月：昭和63年 8 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (8) 著 者：川島秀一	○怪異譚 I モウレン船の言い伝えや体験談を紹介するとともに現実の習慣との関係を記述。	57-66 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (6) 発行年月：昭和63年 9 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (9) 著 者：川島秀一	○怪異譚 II 大漁を導くというジンベエザメの話や大漁話に関する記述。	57-65 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村の民話 (7) 発行年月：昭和63年10月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (10) 著 者：川島秀一	○弘法伝説 三陸沿岸における鮭に係わる弘法 伝説を紹介。	60-67 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (8) 発行年月：昭和63年11月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (11) 著 者：川島秀一	○座頭バナシ 気仙沼地方に伝わる座頭に関する 昔話を紹介。	57-62 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (9) 発行年月：昭和63年12月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 54 (12) 著 者：川島秀一	○歌ムカシ ハナシの中に歌が読み込まれた昔 話をとおして、漁村の女房の機 知、ユーモア、才覚等について記 述。	57-63 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (10) 発行年月：平成元年1月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (1) 著 者：川島秀一	○諺と昔話 気仙沼地方の諺化した昔話を紹 介。	57-62 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (11) 発行年月：平成元年2月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (2) 著 者：川島秀一	○昔話と伝説 昔話が現実の地名や人物などを取 り込んで、伝説化した例を紹介。	57-62 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村の民話 (12) 発行年月：平成元年 3 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (3) 著 者：川島秀一	○子供と笑い話 子供によく話されたと思われる笑 い話と正月に漁村で行われる子供 達の行事を紹介。	57-62 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (13) 発行年月：平成元年 4 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (4) 著 者：川島秀一	○動物昔話 気仙沼地方に伝わる魚や海の動物 を主人公とした昔話を紹介。	57-61 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (14) 発行年月：平成元年 5 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (5) 著 者：川島秀一	○神様バナシ (1) 漁村で神様の話がどのように作ら れ、どのように伝えられているか をある家の龍神様の話を例にして 記述。	57-62 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (15) 発行年月：平成元年 6 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (6) 著 者：川島秀一	○神様バナシ (2) 村の神様がまつられた理由や、そ れがどのように伝えられていくか を記述。	57-61 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (16) 発行年月：平成元年 7 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (7) 著 者：川島秀一	○仏様バナシ (1) 鰹船の上で話された仏様バナシを 紹介。	57-61 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村の民話 (17) 発行年月：平成元年 8 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (8) 著 者：川島秀一	○仏様バナシ (2) 「歌津敵対」という語りものを引用して仏様バナシを紹介。	57-63 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (18) 発行年月：平成元年 9 月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (9) 著 者：川島秀一	○漁師の伝えた昔話 三陸沿岸の漁村で漁師が伝えたと思われる昔話を通して、山と漁村の係わりや漁村に住んでいた漁師の役割を記述。	84-88 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (19) 発行年月：平成元年10月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (10) 著 者：川島秀一	○鳥と漁師 魚の群れを知らせ、魚の群れを作り、さらには天候や季節を知らせる鳥達を漁村の人達はどのように見ていたかを記述。	57-61 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (20) 発行年月：平成元年11月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (11) 著 者：川島秀一	○漁師の世間話 ホラ話を中心とする世間話の紹介を通して、ホラ話及び、ホラ話の担い手をどのように受け入れたかを記述。	90-94 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (21) 発行年月：平成元年12月 発 行 所：漁村文化協会 書 籍 名：漁村 55 (12) 著 者：川島秀一	○カシキの世間話 カシキにまつわる世間話を通してカシキや子供の宗教性について記述。	57-61 水産研究開発センター

文 献 名	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
文 献 名：漁村の民話 (22) 発行年月：平成2年1月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 56 (1) 著 者：川島秀一	○異人の昔話 家々の浮き沈みが激しい漁村の生活ではその変化の原因を外部からやってくるもの（異人）に帰することが多いが、そのような内容の昔話を紹介。	57-63 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (23) 発行年月：平成2年2月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 56 (2) 著 者：川島秀一	○鰹船バナシ 鰹船の上で語られた世間話を紹介し、昔話の伝承の場として、また漁師の生きた知識の供給の場としての船上の役割等を記述。	57-61 水産研究開発センター
文 献 名：漁村の民話 (24) 発行年月：平成2年3月 発行所：漁村文化協会 書籍名：漁村 56 (3) 著 者：川島秀一	○漁師と大話 気仙沼地方で話されている大話を紹介し、漁師の考え方、気質等、大話伝承の背景等を記述。	88-92 水産研究開発センター
論 文 名：浜田徳之 漁業資料 (1) 発行年月：平成2年4月 書籍名：漁村 56 (4) 著 者：川島秀一	○和船時代の鰹漁についての資料 ござ帆、水夫の構成、唐桑における漁業の四季等について記述。	64-69 水産研究開発センター
論 文 名：浜田徳之 漁業資料 (2) 発行年月：平成2年5月 書籍名：漁村 56 (5) 著 者：川島秀一	○唐桑における漁業の四季について 記述。 (メヌケ縄、メダカ縄、鯛縄等)	76-81 水産研究開発センター

	内 容 の 概 要	ペ ー ジ 所 蔵 機 関
論 文 名：浜田徳之 漁業資料（3） 発行年月：平成2年6月 書 籍 名：漁村 56（6） 著 者：川島秀一	○漁船員の信仰 ○経営の方法と漁師の生活 ○魚の値段の決め方	57-61 水産研究開発センター
論 文 名：浜田徳之 漁業資料（4） 発行年月：平成2年7月 書 籍 名：漁村 56（7） 著 者：川島秀一	○発動機船の始まり ○漁船の変遷と漁業の発達 ○鮪立漁業発展に尽力した蔭の人	57-61 水産研究開発センター
論 文 名：浜田徳之 漁業資料（5） 発行年月：平成2年8月 書 籍 名：漁村 56（8） 著 者：川島秀一	○水産王鈴木哲郎と頌徳碑 ○鮪立漁夫組合から親睦会まで ○明治の和船時代からの主な船頭達 ○天気予報の言い伝え	57-61 水産研究開発センター

10/10/10

10/10/10

10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

10/10/10

